

## 西脇小学校の歴史

西脇小学校は、明治34(1901)年の開性尋常小学校と津万尋常小学校、及び多可第二高等小学校の統合により、現在の地に設立された津万尋常高等小学校を直接の前身としています。同校は大正6(1917)年に西脇尋常高等小学校と改称され、昭和3(1928)年には講堂および幼稚園校舎を新設、現在の3棟の校舎は昭和9~11(1934~1936)年に建て替えられ、現在に至っています。

校舎の設計者は小野市の内藤克雄(ないとう よしお 1890年~1973年)という建築家で、小野市、西脇市など近で200あまりの公共建築、民間の建築、住宅を設計しましたが、現存する公共建物はこの西脇小学校以外は柏原町役場などごくわずかとなっています。

## 基本計画検討委員会答申事項(抄録)

1. 3棟とも保存改修し、引き続き小学校校舎として利用する
2. 耐震補強工事
3. 快適な学習・生活環境及び執務環境の確保
4. 長期的な視点に立って多様化する学習ニーズに対応(インクルーシブ教育環境への対応)
5. 障害のある子どもも、障害のない子どもと等しく共に学ぶ教育環境を確保する
6. 外壁に使用されているアスベスト材は安全に撤去・処分
7. 内装については、木のぬくもりや伝統的な面影を継承
8. 鉄筋コンクリート造校舎を中長期的視点に立って位置付け校内全体の整備を行う
9. 早急に応急耐震補強工事を行う。ただし、実施に当たっては、本工事に悪影響が生じないように総合的な判断を行う

## 改修工事完了までの経緯

- |           |  |
|-----------|--|
| 平成24年 3月  | 最初の西脇小学校耐震診断が提出される(この間、「西脇小学校の木造校舎を想う会」の活動)              |
| 平成26年 3月  | 西脇小学校校舎基本計画検討委員会に木造校舎について諮問                              |
| 平成27年 1月  | 同検討委員会の答申として3棟保存が決定                                      |
| 平成27年 7月  | 西脇市と神戸大学大学院人文学研究科との連携協定調印<br>工学研究科と協力して西脇小学校の保存・改修計画が始まる |
| 平成28年 3月  | 西脇小学校改修計画・設計の途中経過を西脇市に報告                                 |
| 平成28年 5月  | 西脇小学校改修計画・設計の市民への第1回報告会                                  |
| 平成28年 9月  | 入札の結果、実施設計事業者が(株)内藤設計に決定                                 |
| 平成28年 11月 | 西脇小学校改修計画・設計の市民への第2回報告会                                  |
| 平成28年 11月 | 改修計画について、法3条適用を兵庫県と協議                                    |
| 平成29年 6月  | 入札の結果、工事業者が(株)吉住工務店に決定                                   |
| 平成29年 6月  | 工事開始   |
| 平成30年 3月  | 第1校舎の工事完了  |
| 平成30年 11月 | 第2校舎の工事完了  |
| 令和元年 8月   | 第3校舎の工事完了  |

## 改修工事概要

1. RC棟は2階まで使用し、普通教室は各学年2+1室とする
2. 改修工事は南の第1校舎から始め、工事終了後から利用を始める(居ながら工事 図-4)
3. 工期は学年末、学期末を区切りとして設定する
4. 工程に合わせて文化財調査を行い、記録を行う
5. 耐震補強は通常の強度より高い $w=1.1$ を確保する。
6. 普通教室の他重要な諸室の空調機器は天井裏に納め、当初の雰囲気を維持する
7. 2階床の防音シートは、住友ゴム製のゴムシートとアスファルトシートを併用する
8. これまで開放的であった廊下は、冬期の気密性の確保のために建具を設置する
9. 金属屋根は濡れたときに光ることがなく、当初のセメント瓦に近いものを採用する
10. これまでむき出しであった設備配管は廊下の下に集約する
11. 第1校舎車寄せ及び玄関の復原については、当時の技法・素材を採用して復原する

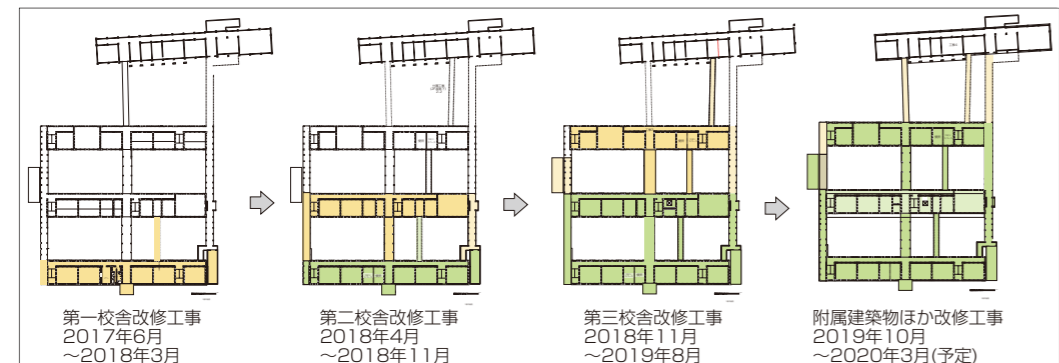


図-4 1期~5期の工事範囲(黄:工事中 緑:改修終了を示す)

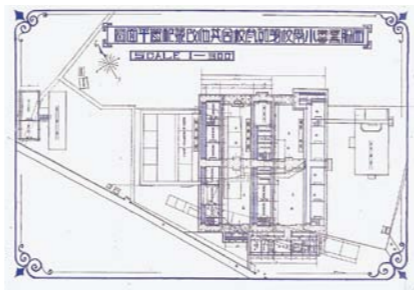


図-1 原設計図(内藤設計所蔵)



内藤克雄

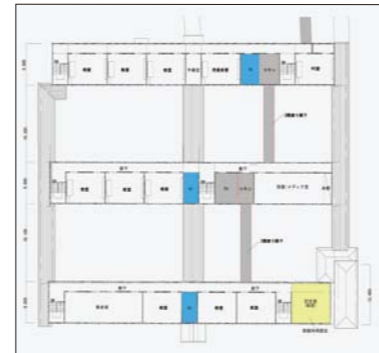


図-2 3棟の校舎は1,2階渡り廊下で段差なく結ばれる

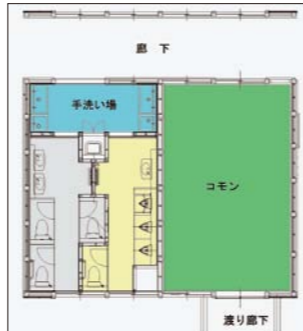
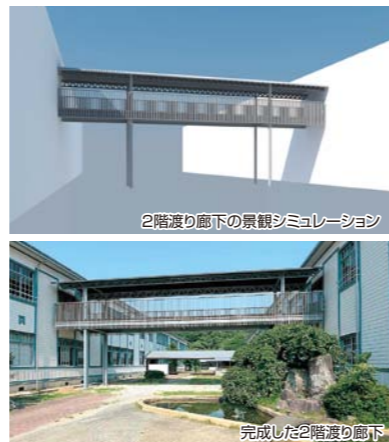


図-3 校舎内便所とコンスペース(第2校舎2階)



完成した2階渡り廊下

## 安全安心の対策(構造補強と防火対策)

1. 第3校舎の東半分の地盤の改良(図-6)
2. 外壁と間仕切壁の下の基礎補強(写真右上)
3. 内外壁の補強(図-5,6)
4. 床補強(図-5,6)
5. 屋根補強(図-5,6)
6. 小屋裏の防火界壁
7. 2方向避難の確保(図-2)
8. 消火設備の新設
9. 外壁側の引違い窓に強化ガラスを採用

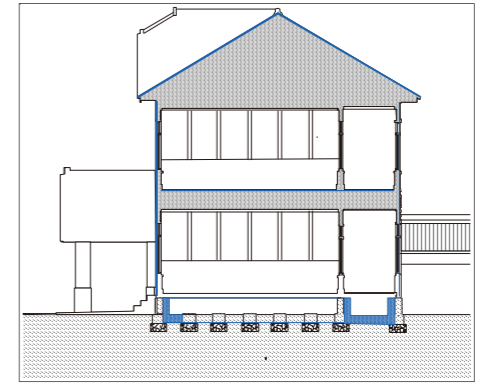


図-5 構造補強した部分(青で表示)

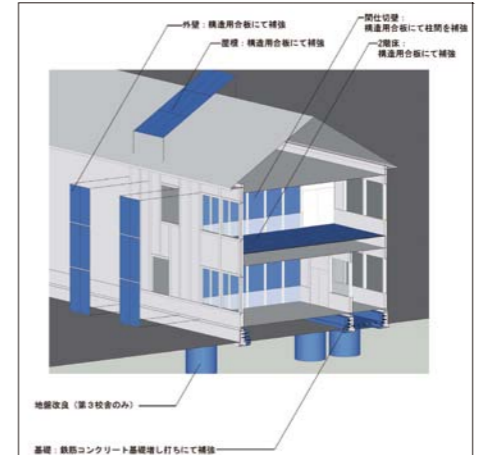


図-6 構造補強した部分(青で表示)

## 教育環境の改善(衛生設備・空調設備、教育機器の改善)

1. 中央渡り廊下にスロープを設け、第2校舎のエレベーターと新設の2階渡り廊下によって、全棟のユニバーサルデザイン化を確保(図-2)
2. 全棟、各階に便所と手洗い場を確保 (図-3)
3. 主要室全てに空調設備を設置
4. 校舎全体の断熱性能を向上させ、吹きさらしであった廊下の気密性を確保
5. ランドセル、身の回りの持ち物置場を確保
6. 校舎内に靴箱を設置し、渡り廊下にウッドデッキを設置(写真下左)
7. LAN、WiFi環境を整え、放送設備を充実
8. 普通教室には全て昇降黒板とプロジェクターを設置(写真下中)
9. カーテン生地の特注の播州織を採用



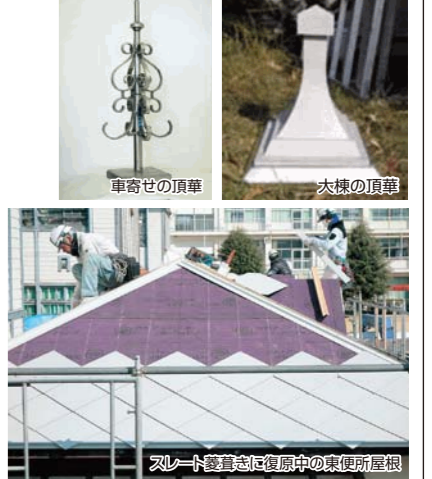
校舎の中央にはバリアフリーのためのスロープと靴箱を設ける



普通教室は昇降黒板、プロジェクター等新しい機器を備える

## 文化財としての保存と変更(復原)

1. 南棟車寄せを当初の姿に戻し、学校名の銘板を設置
2. 土間となっていた第1校舎玄関を当初の床張りに復元し、玄関扉、長石の階段を復元
3. 東外部便所を残し外観を復元、西外部便所は外観を維持しながら内部改修を行う。
4. 内部の仕様の優れた校長室、応接室、裁縫室、旧理科室などは旧状を維持
5. 教育環境の改善、安全安心のために手を加える必要のない箇所は保全
6. 渡り廊下の屋根を当初のようにスレート葺きで復元
7. 当初の色彩の調査を行い、塗り替えられてきた履歴も考慮して色彩復元
8. 銅板葺きの屋根を、当初のセメント瓦に近い雰囲気をもち金属瓦に変更
9. 車寄せとおむねの棟飾りを復元
10. 第1校舎と取り壊された講堂を結ぶ出入口を復元



ドラス構造の小屋組



間仕切り壁補強のために仕上げを撤去した状態



基礎補強のための配筋を行った状態



第2校舎にはエレベータを設置



家庭科室は電磁調理器、アイロン専用台を備える



外壁の塗装調査



車寄せの頂華



大棟の頂華